※令和４年度以降入学生用

学校番号	T3005

令和８年度　情報科

教科	情報科	科目	情報Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	情報Ⅱ　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

情報化社会を生き抜くための基礎的な内容を学びます。
知識や考え方だけではなく、コンピュータの扱いにも慣れてもらいたいと思っています。
コンピュータに使われる人ではなく、コンピュータを使う人になりましょう。

2　学習の到達目標

・効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得させるとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深める。
・様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付ける。
・情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と除法技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期(中間考査まで)	情報社会の進展と情報技術	・情報技術による社会や生活の変化 ・情報社会と情報セキュリティ	a:情報技術の発展の歴史を踏まえ，情報社会の進展について理解している。ソーシャルメディアの発展によるコミュニケーションの多様化について理解している。データや AI の発展による人の知的活動への影響について理解している。サイバー犯罪について理解している。情報セキュリティの重要性と必要性および法律や制度について理解している。 b:情報技術の発展がわたしたちの生活や社会に与えてきた影響について考えられる。コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツのあり方について考えられる。データ活用や AI を利用する意義について考えられる。情報セキュリティについて考え、個人が気をつけるべき対策について考える。 c:情報技術の歴史に関心を持ち，その発展の経緯を調べようとしている。社会における問題解決のために情報技術がどのように役立っているのか調べようとしている。これからの社会でわたしたちに求められる力について考えようとしている。情報社会の問題を考察することができる。情報に関する法規や制度を理解して，情報社会に主体的に参画しようとしている。	プリント 定期考査	プリント 文書作成 課題 定期考査	プリント 文書作成 課題 観察

※令和４年度以降入学生用

	コミュニケーションとコンテンツ	・コンテンツの制作 ・Web サイトによる情発信 ・プロトタイプの作成 ・Web ページの作成とレスポンシブ化	a:文字、音声、静止画、動画のメディアにおける特性を理解している。コンテンツを制作する際の留意点を把握している。問題解決の仮説を作成する手法を理解している。ページの分掌構造やレイアウトについて理解している。 b:メディアの効果について考え表現できる。ユーザー調査の内容を考え実施することができる。メディアプランニングを立案できる。ページの文書構造やレイアウトを HTML や CSS で表現することができる。 c:メディアの効果について考え、複数のコンテンツの差異を観察し考察する。メディアプランニングについて積極的に取り組もうとする。アクセス解析についての問題や課題について、積極的に解決に取り組もうとする。サイトの課題を発見し、課題解決に取り組もうとする。	プリント 定期考査	プリント プレゼンテーション 課題 定期考査	プリント プレゼンテーション 課題 観察
	情報とデータサイエンス	・データ活用の重要性 ・データの収集と整理 ・データの蓄積と活用 ・データの分析	a:社会で活用されている情報システムの仕組みを理解している。リレーショナルデータベースの構成やデータウェアハウスについて理解している。データ分析における可視化の必要性とその方法について理解している。 b:ビッグデータとオープンデータの事例について工夫して表現することとができる。表計算ソフトなどを利用して、適切な前処理と統計処理を行うことができる。主キーを意識したテーブルの構成を考えることができる。データベーステーブルの正規化と分割を適切に行うことができる。得られたデータを図やグラフなどを用いて表現することができる。	プリント 定期考査	プリント プレゼンテーション 課題 定期考査	プリント プレゼンテーション 課題 観察

※令和４年度以降入学生用

			c:データサイエンスが活用されたサービスのしくみについて詳しく調べようとしている。リレーショナルデータベースのテーブルを積極的に作成しようとしている。データ分析における可視化の必要性とその方法について理解し、効果的に可視化しようとする。			
前期（期末考査まで）	情報とデータサイエンス	・データベースの作成とSQL ・Web アプリケーションの作成とデータベースとの連携	a:データベースのテーブルの内容と構成の方法について理解している。アプリケーションとデータベースの連携について理解している。 b:Web サイトに必要な機能やデータ項目を抽出することができる。データベースからのデータ選択など SQL に関連する機能を，プログラムで適切に表現できる。 c:データ型、演算子などを適切に利用しようとする。アプリケーションとデータベースとの不具合がないようにしようとする。	プリント 定期考査	プリント プログラミング課題 定期考査	プリント プログラミング課題 観察
	情報システムとプログラミング	・情報システムのしくみと情報セキュリティ技術 ・情報システムの開発と運用	a:情報システムのしくみや課題について理解している。情報システムで扱われるデータについて理解している。システム開発の工程について理解している。情報システムに障害をもたらす脅威や情報セキュリティを支える技術について理解している。プログラミング言語の種類と使い分けについて理解している。 b:情報システムやネットワークについてのトラブルや問題点を考察し、改善しようとする。データの種類に応じて、適切な表現方法を選択できる。簡単なアルゴリズムを構造化チャートで表すことができる。 c:ネットワークの仕組みに関心を	プリント 定期考査	プリント プログラミング課題 定期考査	プリント プログラミング課題 観察

※令和４年度以降入学生用

			持ち、理解しようとしている。 主体的にデータの整理・分析をしようとしている。			
	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究	・情報と情報技術を活用した問題解決 ・情報と情報技術を活用した問題解決の探究	a:個人情報には，保護のみならず活用する意義があることを理解している。個人情報の利用にある，社会的なトレードオフの側面も理解している。回帰分析のしくみや，単回帰分析と重回帰分析の違いを理解している。Web アプリケーションの管理者ページの機能を理解している。 b:個人情報を保護するために必要な対策を具体的に表すことができる。単回帰分析や重回帰分析の処理を行い、その結果を適切に解釈することができる。Web サイトとデータベースとの動的な連携を実装することができる。 c:単回帰分析と重回帰分析との違いを理解したうえで，適切に活用しようとしている。ユーザや管理者の立場に立って，Web アプリケーションを評価しようとしている。よりよい問題解決に向けて，考慮すべき要点を具体化しようとしている。	プリント 定期考査	プリント プレゼンテーション 課題 定期考査	プリント プレゼンテーション 課題 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度